

【2020 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間学		選択	1	1.2	後期(後半)
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
山本 泰宏(責任者)、松崎 昇	C304	yasuhiro_yamamoto		水曜日 9:00~10:30	
授業の目的・概要	<p>本科目の目的は3つある。</p> <p>1) 人間存在をさまざまな視座から考究し、その特質を立体的に把握すること。</p> <p>2) それにより、今後十全に生きていく上での高度な教養を身に付けること。</p> <p>3) および、将来臨床職等に従事する際の柔軟な人生観を身に付けること。</p> <p>上記の目的を達成すべく、前半4回は教養ある人間としての一般的人間論を理解し、後半4回は前半4回の内容が具体的に医療にどのように係るのか考察する。Teams を利用して同時双方向型の遠隔授業、フィードバック等を行う。</p>				
学習上の助言	授業に意欲的に取り組むこと。教科書を指定していないので、授業の中で十分に消化すること。そのため、不明な点は積極的に質問すること。				
教科書	なし。				
参考書	必要に応じ、授業中に随時紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	これまでの主要な人類学・人間学における人間観を説明できる。			HSU (1)、(2)	
②	人間存在を改めて体系的に説明できる。			HSU (2)、(5)	
③	人間存在を巡る現在進行形の諸論点を学び、今後の方向性を試考展望できる。			HSU (4)、(6)	
④	医学的視点から人間観を説明できる。			HSU (1)、(2)、(4)、(5)、(6)	
⑤	科学技術の進歩がもつ負の側面について説明できる。			HSU (1)、(2)、(4)、(5)、(6)	
⑥	科学技術の負の側面を克服するために何が必要か説明できる。			HSU (1)、(2)、(4)、(5)、(6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間(時間)		
1	はじめに本科目の Guidance を行う。 ついでこれまでの主要な人類学・人間学を学ぶ。	講義(同時双方向型授業)	配布課題を調考記述し提出する。	3.5	
2	大自然は[物質・生命・人間]という三推転をしてきた。 その様相を改めて論理体系的に考察してみよう。	講義(同時双方向型授業)	配布課題を調考記述し提出する。	3.5	
3	人間は時空間的に[南洋発前代・西洋発近代]と推転してきたし、 今後も新たな推転を示すであろう。 人間の来し方行く末を、論理体系的に考察推論してみよう。	講義(同時双方向型授業)	配布課題を調考記述し提出する。	3.5	
4	現在係争中の人文社会系の人間・倫理問題について学ぶ。 AI を筆頭とした科学技術が人間の未来存在といかなる関係を取り結ぶか、などを議論考察してみよう。 さらにこれまでの議論を踏まえ、各自、今後のあるべき人間観を試考展望してみよう。	講義(同時双方向型授業)	配布課題を調考記述し提出する。	4	
5	リハビリテーション医学の視点でとらえた人間観を学ぶ。これまでに学習した人間観と何が同じで何が違うのか考える。	講義(同時双方向型授業)	ICIDH と ICF の違いとそれぞれの目的を復習する。	3.5	
6	現在係争中の環境倫理・生命倫理等の問題について学ぶ。 ① 環境問題と国際協調、なぜ国際協調できないのか。 ② 臓器移植による疾病治療。治癒した私はだれ?	講義(同時双方向型授業)	社会が成り立つためにはどのような制度が必要なのか復習する。	3.5	
7	現在係争中の技術倫理・情報倫理等の問題について学ぶ。 ① ヘルシンキ宣言について学ぶ。 ② インフォームドコンセントとは?	講義(同時双方向型授業)	医療において知識と技術以上に倫理観が必要である理由を復習する。	3.5	
8	これまでの議論を踏まえ、改めて、各自、今後のあるべき人間観を試考展望してみよう。 レポート作成	講義(同時双方向型授業)	レポート作成。	4	
試	レポート提出				

【2020 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	50	0	0	50	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	30	0	0	0	30
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	10	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①		基礎演習 I で学習したレポートの書き方に従ってレポートを作成する。テーマ、採点基準は授業中に説明する。				コメントをつけて返却する。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①		基礎演習 I で学習したレポートの書き方に従ってレポートを作成する。テーマ、採点基準は授業中に説明する。				コメントをつけて返却する。
	②						
	③						
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	第 1 ～ 4 回で提出した配布課題を全体の 50% の配点で評価する。 (総合評価割合の「その他」)				コメントをつけて返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：山本泰宏（責任者：第 5 ～ 8 回）、松崎昇（第 1 ～ 4 回）</p> <p>Teams を用いた同時双方向型授業になる見込みである。</p> <p>Power Point 視聴・同時双方向行為等があるので、通信容量無制限の Wi-Fi 環境の確保を勧める。</p> <p>今後の情勢によっては授業内容・シラバスの再度の変更もありうる。その場合には事前に告知する。</p>							